

第4学年国語科学習指導案

1 単元名 場面をくらべて読もう「一つの花」

2 指導観

(1) 児童の実態

これまでの物語の単元で、人物の気持ちの変化を場面をつないで考えたり人物の行動や会話文から人物像をとらえたりする学習を積み重ねてきている。その中で、人物の気持ちが変わっている言葉に着目して、その言葉ははずして読んだり似た言葉と比べて読んだりする読み方を学習してきた。しかし、それらの読み方を確実に習得しているか、自分で進んで活用できるかどうかについては、個人差が大きく、書き込みや発表がなかなかできない子どもが2割程度いる。全体の傾向としては、人物の気持ちを思いつきで言うことはできても、場面と場面をつないで文脈をとらえ、根拠となる叙述を明確にして考えを述べるのが苦手な子が多い。

(2) 教材の特質

戦争がはげしかった時代にまだ幼かったゆみ子が戦争に行くお父さんに一輪のコスモスの花をもらい、十年後、戦争が終わり、成長している姿を描いた話である。大きく3つの場面で構成され、前半2場面は、お父さんとお母さんの幼いゆみ子への思いが中心に書かれ、最後の場面はゆみ子の十年後が描かれている。お父さんがゆみ子に渡した一輪のコスモスの花が「一つの花」として題名になっていることから、一つの花にこめたお父さんの願いがこの物語の中心を貫いているといえる。したがって、この教材は、親の子を思う気持ちについての見方・考え方を広げたり深めたりできる価値があるといえる。

読み方の面では、場面と場面をつないでお父さんの気持ちを読み深めることができる。また、1行空きの後、十年後の場面となっていることから、場面を比べて人物の変容を読む読み方が身に付けられる教材である。他にも、「ゆみ。」の句点、指示語、文末表現に着目する読み方、「めちゃくちゃに」「決まって」など人物の気持ちが分かる言葉をいた言葉と比べたりはざしたりして読む読み方などを身に付けることができる教材である。

(3) 指導にあたって

読み通しの目をつくる段階では、題名「一つの花」がものを表す題であることから、主人公と関係があつたり物語で中心的な役割を果たしたりするであろうことを予想させ冒頭を読ませる。冒頭には「一つの花」が出てこないことを確認した後、「人物、時、場所を読む読み方」を活用し、物語の設定と方向性をとらえさせ、「ゆみ子がこれからどうなるお話だろう。一つの花は何を表しているのだろうか」という読み通しの目をつくる。読み通しの目の答えをまとめる段階では、これまでにあらすじをまとめたときに習得した読み方を活用し、主人公ゆみ子の行為や姿からまとめさせる。学習計画では、なぜ、別れ際にお父さんは「大事にするんだようー」と言って一輪のコスモスの花を渡したのかという子どもたちの疑問を生かしながら、主人公はゆみ子であるが、お父さんの気持ちをくわしく読み確かめていくことを確認し、各場面の中心文を設定する。読み確かめる段階では、中心文から書き込みの視点をつくり、自分の考えを書き込んでから全体で話し合っていく。ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さん、戦争に行く日プラットホームでゆみ子をだいて小さくばんざいをしていたり歌を歌っていたりするお父さん、一輪のコスモスの花をゆみ子に渡し、一つの花を見つめながら行ってしまふお父さんの気持ちを「場面と場面をつなぐ読み方」を活用して読み確かめさせる。その際、指示語、句点などの読み方を習得・活用させていく。最後の場面では、十年後の場面を前の場面と比べてお父さんの願いがどうなったかを読み確かめ、「場面を比べる読み方」を習得させる。読みのまとめの段階では、読み確かめたことと読み方をふり返り、題名「一つの花」の意味を考え、親の子に対する思いについての見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。

3 単元の目標

- 一輪のコスモスの花をゆみ子に渡して戦争に行くお父さんの気持ちやその願いを受け止めたゆみ子とお母さんの姿を読み取り、「一つの花」という題名にこめた作者の思いを考えることができるようにする。
- 場面と場面をつないで文脈をとらえる読み方、人物の気持ちが表れた言葉に着目して比べたりはざしたりする読み方を活用し、場面と場面を比べて人物の変容を読む読み方を習得することができるようにする。
- 親の子に対する思いについての見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。

4 学習計画（全10時間）

次時	主な学習活動	指導上の留意点
読み通しの目	<p>1 題名から分かること、思ったこと、読んでみたいことを話し合う。</p> <p>2 冒頭を読んで、題名とのつながりや人物・時・場所を話し合い、物語の方向性をつかむ。</p> <p>3 題名と冒頭から読み通しの目をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 読み通しの目 —</p> <p>①ゆみ子はこれからどうなるお話なのだろう。</p> <p>②一つの花はこのお話の何を表しているのだろう。</p> </div>	<p>○ 「一つの花」の「一つ」からどんな感じがするか考えさせる。</p> <p>○ ものの名前が題名になっていることから、既習学習を想起させ、「一つの花」が物語の中で大事な役割を果たしているということを予想させる。</p> <p>○ 冒頭には「一つの花」は出てこないが、ゆみ子が最初に覚えた「一つだけちょうだい」の「一つ」に関係がありそうなことに気づかせる。</p> <p>○ 戦争がはげしかったころ、毎日のように空襲がある町での話であること、主人公ゆみ子がどのように描かれているかをとらえさせる。</p> <p>○ お母さんがそんな主人公ゆみ子のことをどんなふうに思っていたのか考えさせる。</p>
読み通しの目の答え	<p>1 全文を読む。</p> <p>(1) 意味が分からない言葉を辞書で調べる。</p> <p>(2) すらすら読めるように練習をする。</p> <p>2 読み通しの目①の答えを書きまとめる。</p> <p>(1) 場面をとらえ、読み通しの目の答えを80字程度で書きまとめる。</p> <p>(2) 書いた答えを見直し、修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 予想される読み通しの目の答え —</p> <p>「一つだけちょうだい」を覚えたゆみ子が、戦争に行くお父さんに一つの花をもらって喜んだ。十年後、ゆみ子はたくさんのコスモスに包まれた家で小さなお母さんになった話。(80字)</p> </div> <p>(3) 読み通しの目②の答えを書く。</p>	<p>○ 口の開け方や声の大きさ、姿勢に気を付け、正しく読むことができるように、評価しながら練習させる。</p> <p>○ 1行空きに着目させ、場面構成をつかみ、最後の1行空きには十年の年月があることをとらえさせる。</p> <p>○ 主人公はゆみ子であることを確認し、あらすじをまとめるために必要な場面を考えさせる。</p> <p>○ お父さんがゆみ子に渡した花であることから、「一つの花」が何を表しているか考えさせる。</p>
学習計画	<p>1 読み通しの目②の答えから、くわしく読み確かめていく学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 読み確かめること —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ち ・駅のホームで小さくばんざいをしていたり歌を歌っていたりするお父さんの気持ち ・ゆみ子に一つの花を渡し、一つの花を見つめながら汽車にのって行ってしまうお父さんの気持ち ・十年後のゆみ子の様子からお父さんの気持ちがどうなったといえるのか </div>	<p>○ 題名にもなっている「一つの花」を渡したのがお父さんであることから、「一つの花」にはお父さんのゆみ子への願いがこめられていることに気づかせ、主人公はゆみ子であるが、この物語はお父さんの気持ちを読み確かめていけばいいことを確認する。</p> <p>○ お父さんの行動で、くわしく考えたいことはないかと問いかけ、各場面の中心文を決めていく。</p>
	<p>1 ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちについて自分の考えを書く。</p>	<p>○ 中心文から子どもとやりとりしながら考える視点をつくり出す。</p>

読み 確 か め ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ そんなときとはどんなときか。 ・ 「決まって」「めちゃくちゃに」高い高いをしたのはなぜか。 <p>2 ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) そんなときとはどんなときか話し合う。</p> <p>(2) 「決まって」と「めちゃくちゃに」の意味を確認し、どうしてそのように高い高いをしたのか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことと読み方をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導を行い、考えを書いている子により深める視点を与えたり書けない子には助言したりする。 ○ 「いったい～」のお父さんの心配は何かを考えさせ、食べ物を十分に食べることができないゆみ子が健やかに大きくなっていけるか心配していることを読み取らせる。 ○ 「決まって」とは1回ではなくいつもしているということを確認する。「めちゃくちゃに」は動作化させ、より高く大きくしていることをとらえさせる。 ○ ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのは、お父さんの心配や不安、喜びをあげたいという思いがあることを前の会話文とつないで読み取らせる。 ○ 読み確かめたことが分かりやすいように構造的な板書をする。また読み方カードを板書に位置づけておく。
読み 確 か め ②	<p>◎戦争に行く日、ゆみ子をだいて小さくばんざいをしていられることができる。</p> <p>1 中心文から書き込みの視点をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたり・・・どんな気持ちか。(まわりの人のばんざいや軍歌と比べて) <p>2 書き込みをもとにお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「小さくばんざいをしていたり」のお父さんはどんな気持ちか。</p> <p>(3) 「歌を歌っていたり」のお父さんはどんな気持ちか。</p> <p>2 読み確かめたことと読み方をまとめる。</p>	<p>ていたり、歌を歌っていたりしていたお父さんの気持ちを読み確</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中心文のどの言葉に書き込みをすればお父さんの気持ちがくわしく分かるかを問いかけ、子どもとやりとりしながら書き込みの視点をつくる。 ○ 「そんなばんざいや～」の指す言葉を確認し、まわりの人のばんざいや軍歌とお父さんの様子をくらべて考えを書かせる。 ○ 「ゆみ子をだいて」に着目させ、お父さんがしているばんざいは、まわりの人のばんざいとはちがって、ゆみ子をあやすためにしていることに気付かせる。 ○ 「軍歌」とは書いていないことに気付かせ、お父さんはゆみ子の好きな歌などを歌ってゆみ子を喜ばせるためにしてることに気付かせる。 ○ 「いたり」の「い」があることから、お父さんとお母さんとゆみ子の家族3人が、別れの前にプラットホームに「いる」ことを表していることに気付かせる。 ○ 読み確かめたことが分かりやすいように構造的な板書をする。また読み方カードを板書に位置づけておく。
読み 確 か め	<p>◎ ゆみ子に一輪のコスモスの花を渡し、にっこり笑うと何も言わずに一つの花を見つめながら行ってしまうお父さんの気持ちを読み確かめることができる。</p> <p>1 中心文からお父さんの気持ちを考え、話し合う。</p> <p>(1) 「ゆみ。」の句点からどんなお父さんの気持ちが分かるかを書き込みし、話し</p>	<p>うと何も言わずに一つの花を見つめながら行ってしまのお父さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 句点になっていることに、音読を通して気づかせる。そのときの状況をとらえさせ、お父さんが改まって真

③	<p>合う。</p> <p>(2) 「一つだけのお花、大事にするんだようー。」とはお父さんは何を大事にしたいと思っているのか書き込みをし、話し合う。</p> <p>(3) 「それを見てにっこり笑うと」から、なぜにっこり笑ったのかを話し合う。</p> <p>(4) 「一つの花を見つめながらー。」汽車に乗って行ってしまったお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>2 読み確かめたことと読み方をまとめる。</p>	<p>剣にゆみ子に最後の言葉として何かを伝えようとしていることをとらえさせる。</p> <p>○ 「プラットホームのはしっぽの～コスモスの花」とつないで、お父さんのゆみ子への命を大事に強く生きてほしいという願いをとらえさせる。</p> <p>○ 「ゆみ子は～喜びました」の「喜び」に着目させ、2場面の「喜びなんて～」とつないで、お父さんはゆみ子が食べ物以外で喜んでいることがうれしかったことをとらえさせる。</p> <p>○ この「一つの花」は、お父さんのゆみ子への願いこめられた花であることに気づかせる。</p> <p>○ 読み確かめたことが分かりやすいように構造的な板書をする。また読み方カードを板書に位置づけておく。</p>
読み 確 か め ④	<p>◎ 十年後のゆみ子の姿から、お父さんの願いがどうなったか読み確かめることができる。</p> <p>9 1 お父さんの願いがどうなったか分かりそうな文を見つけ、書き込みの視点をつくる。</p> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスの花でいっぱい～ ・ 「母さん～」 ・ 小さなお母さんに～ <p>2 書き込みをする。</p> <p>3 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>4 読み確かめたことと読み方をまとめる。</p>	<p>○ どの言葉に書き込みをすればお父さんの気持ちがどうなったかが分かるかを問いかけ、子どもとやりとりしながら書き込みの視点をつくる。</p> <p>○ 冒頭の戦争中の様子や「一つだけちょうだい」と言っていたゆみ子の姿と比べさせ、戦争が終わりゆみ子がお母さんの手伝いでお昼を作るまでに成長していることに気付かせる。</p> <p>○ 読み確かめたことが分かりやすいように構造的な板書をする。また読み方カードを板書に位置づけておく。</p>
読み の ま と め	<p>◎ 読み確かめたことをふり返り、題名の意味を考え、親の子に対する思いについて見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。</p> <p>10 1 読み確かめてきたお父さんの気持ちと読み方をふり返る。</p> <p>10 2 題名「一つの花」の意味を話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことについて自分の感想を手紙にまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分（読み手）からゆみ子へ ・ 天国のお父さんからゆみ子へ ・ お母さんから天国のお父さんへ 	<p>○ 既習掲示物を指しながら、読み確かめたお父さんの気持ちをふり返らせる。</p> <p>○ 「一つの花」はお父さんのゆみ子に対する願いがこめられた花であること、その願いをお母さんが受け止めて十年間ゆみ子を育て、ゆみ子が願い通りに育てていることをとらえさせる。</p> <p>○ 3パターンの書き方から子どもが書きやすいものを選ぶようにする。</p>

6 本時の目標

- プラットホームのはしっぽで強く生きるコスモスのようにゆみ子も命を大事にして強く生きぬいてほしいという思いをこめて一輪のコスモスの花を渡し、食べ物ではないのに喜んだゆみ子を見てにっこり笑い、一つの花を見つめながら汽車に乗って行ってしまったお父さんの気持ちを読み確かめることができるようにする。
- 「句点を読点と比べて読む読み方」を習得し、「場面と場面をつないで読む読み方」を活用することができるようにする。

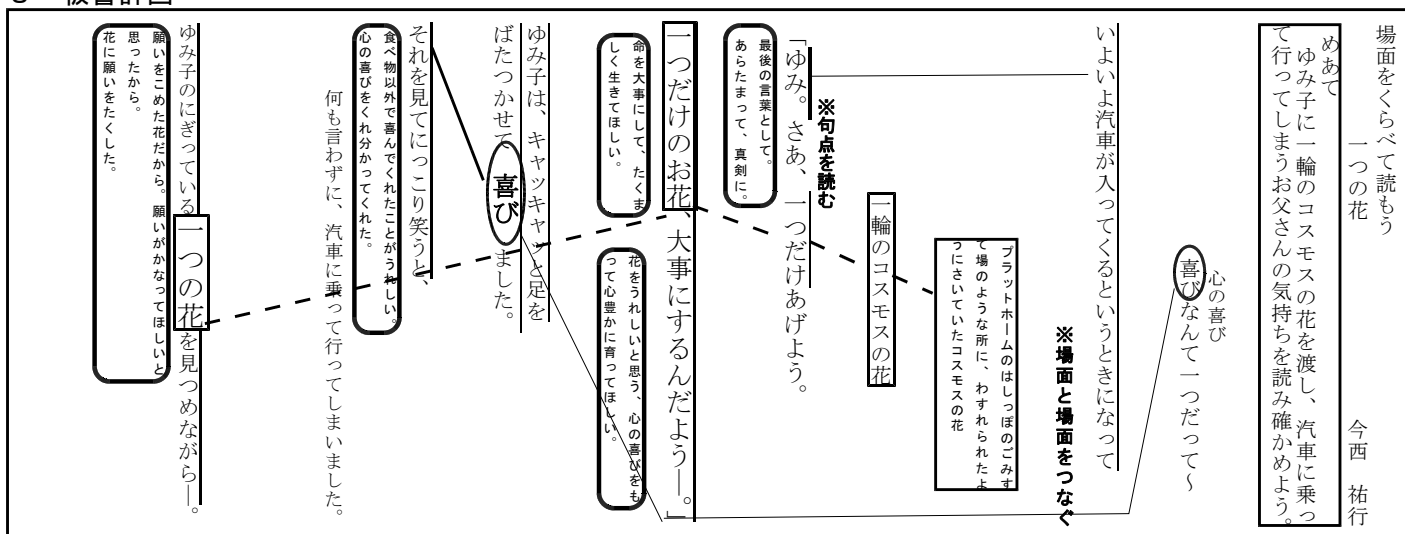
7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの気持ちや戦争に行く日、プラットホームのはしの方でゆみ子をだいて小さくばんざいをしていたり歌を歌っていたりしていたお父さんの気持ちを読み取ってきた。本時は、いよいよ汽車が入ってくるというとき、「一つだけちょうだい」と泣き出したゆみ子に、一輪のコスモスの花を渡し、汽車に乗って行ってしまふ場面の学習である。

まず、「ゆみ。」の音読を通して、読点ではなく句点になっていることに気づかせ、別れの時が迫り、ゆみ子に最後の言葉として何か伝えようとしているお父さんの真剣な気持ちを読み取らせる。次に、「一つだけのお花」は「プラットホームのはしっぽの～コスモスの花」であることを確認し、お父さんは何を大事にしてほしいのか考えさせる。花そのものを大事にしてほしいという考えをもっている子どもには、実物を見せてすぐに枯れてしまうことに気付かせる。「ごみすてばのような所に忘れられたようにさいていた」から、人が育てていないのに力強く花を咲かせるコスモスの花をイメージさせ、このコスモスのように苦しい中でも命を大事にたくましく育ててほしいというお父さんの願いを読み取らせる。そして、その花を受け取ったゆみ子がキャッキャッと足をばたつかせて喜んだのを見てにっこり笑ったお父さんの気持ちを話し合う。「喜び」という言葉に着目させ、2の場面の会話文中の「喜び」とつないで、食べ物以外でお父さんがうれしかったことを読み取らせる。最後に、「一つの花」を見つめながら行ってしまったのはなぜか話し合う。「一輪のコスモスの花」「一つだけのお花」という言い方と比べ、ここでは題名になっている「一つの花」と書かれていることから、ここでお父さんが見つめていたのは、命を大事にしてほしいという願いや花を美しいと思う心を大事にしてほしいという願いがこもった、一つしかない、「一つの花」であることに気付かせる。

本時のまとめでは、板書を指しながら読み確かめたことと読み方を各自声に出して話をさせる。その後代表児に発表させ、自分の学習プリントに読み確かめたことと読み方を書きまとめさせる。

8 板書計画



9 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてを確認し、本時場面を音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>ゆみ子に一輪のコスモスの花を渡し、汽車に乗って行ってしまってお父さんの気持ちを読み確かめよう。</p> </div> <p>2 中心文からお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「ゆみ。」の句点からどんなお父さんの気持ちが分かるかを書き込みし、話し合う。</p> <p>(2) 「一つだけのお花、大事にするんだようー。」とはお父さんは何を大事にしてほしいと思っているのか書き込みをし、話し合う。</p> <p>(3) 「それを見てにっこり笑うと」から、なぜにっこり笑ったのかを話し合う。</p> <p>(4) 「一つの花を見つめながらー。」汽車に乗って行ってしまったお父さんの気持ちを話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことと読み方をまとめる。</p> <p>(1) 板書を指しながら読み確かめたことと読み方を話し、代表児が発表する。</p> <p>(2) 学習プリントに書きまとめる。</p>	<p>○ 中心文を意 させながら音読させる。</p> <p>○ 「ゆみ、さあ～」を読点になっている文を示し、比べて音読させることで、「ゆみ。」の句点にお父さんの気持ちが表れているという問題意 をもたせ、書き込ませる。</p> <p>○ 「いよいよ汽車が入ってくるというとき」から、3人に された時間がわずかであるという状況をとらえ、お父さんが改まって真剣にゆみ子に最後の言葉として何かを伝えようとしていることをとらえさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読み方の習得と活用</p> <p>句点と読点をくらべて、最後にゆみ子に伝えようとする真剣なお父さんの気持ちを読み取る。</p> </div> <p>○ 花そのものを大事にしてほしいと言っているのではなく、お父さんが一つだけの花に思いをこめたことを確認して書き込みをさせる。</p> <p>○ 「プラットホームのはしっぽの～コスモスの花」から、お父さんはゆみ子に、コスモスのように強く生きてほしい、たった一つの命を大事にしてほしいという願いをこめたことをとらえさせる。</p> <p>○ 「ゆみ子は～喜びました」の「喜び」に着目させ、おにぎりがほしかったゆみ子が花をもらって喜んでいることに気付かせる。2場面の「喜びなんて～」とつないで、お父さんはゆみ子が食べ物以外で喜んでいることがうれしかったことをとらえさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読み方の習得と活用</p> <p>2の場面とつないで読むことで、ゆみ子が喜んだことがうれしいお父さんの気持ちを読み取る。</p> </div> <p>○ この「一つの花」は、ただの「一輪のコスモスの花」ではなく、お父さんがゆみ子に命を大事にしてほしいという願いをこめた花であり、ゆみ子が喜んでにぎっている花であることに気づかせる。</p> <p>○ 「句点を読む」「場面と場面をつないで読む」の読み方を活用したことを読み方カードを板書に位置づけ確認する。</p>